

新鎌ヶ谷駅南北自由通路等整備計画

1 新鎌ヶ谷駅周辺の現状

新鎌ヶ谷駅は、成田空港と羽田空港を結ぶ広域交流拠点であり、北総線・新京成線・東武アーバンパークライン・成田スカイアクセス線の4線が乗り入れる総合乗換駅として機能しております。新鎌ヶ谷駅の乗降客数は、成田スカイアクセス線を除く3線の乗り入れが開始となった平成11年度は約4万4千人/日でしたが、駅周辺における特定土地地区画整理事業を要因とする人口増加等に伴い、平成30年度には10万人/日を超えるなど、年々増加傾向にあります。

また、令和元年12月1日には新京成線の高架化、令和2年3月には東武アーバンパークラインの急行運行も開始されるなど、新鎌ヶ谷駅を取り巻く環境は変化し、今後も更なる発展が期待できます。

しかしながら、北総線と新京成線により駅の南西・北西地区を往来する機能が不足しており、両地区を往来するには迂回する必要があるなど歩行者ネットワークが不十分な状態となっております。

2 新鎌ヶ谷駅南北自由通路等の整備方針

新鎌ヶ谷駅南北自由通路等整備計画では、新鎌ヶ谷駅周辺における現状の課題を解決すべく、以下の(1)～(3)により整備をします。

(1) 目的

新鎌ヶ谷駅周辺における回遊性及び安全・安心な歩行者空間の確保や駅利便性の向上といった交通結節機能の強化を図るとともに、広域交流拠点である新鎌ヶ谷地区における更なる賑わいの創出を目的とします。

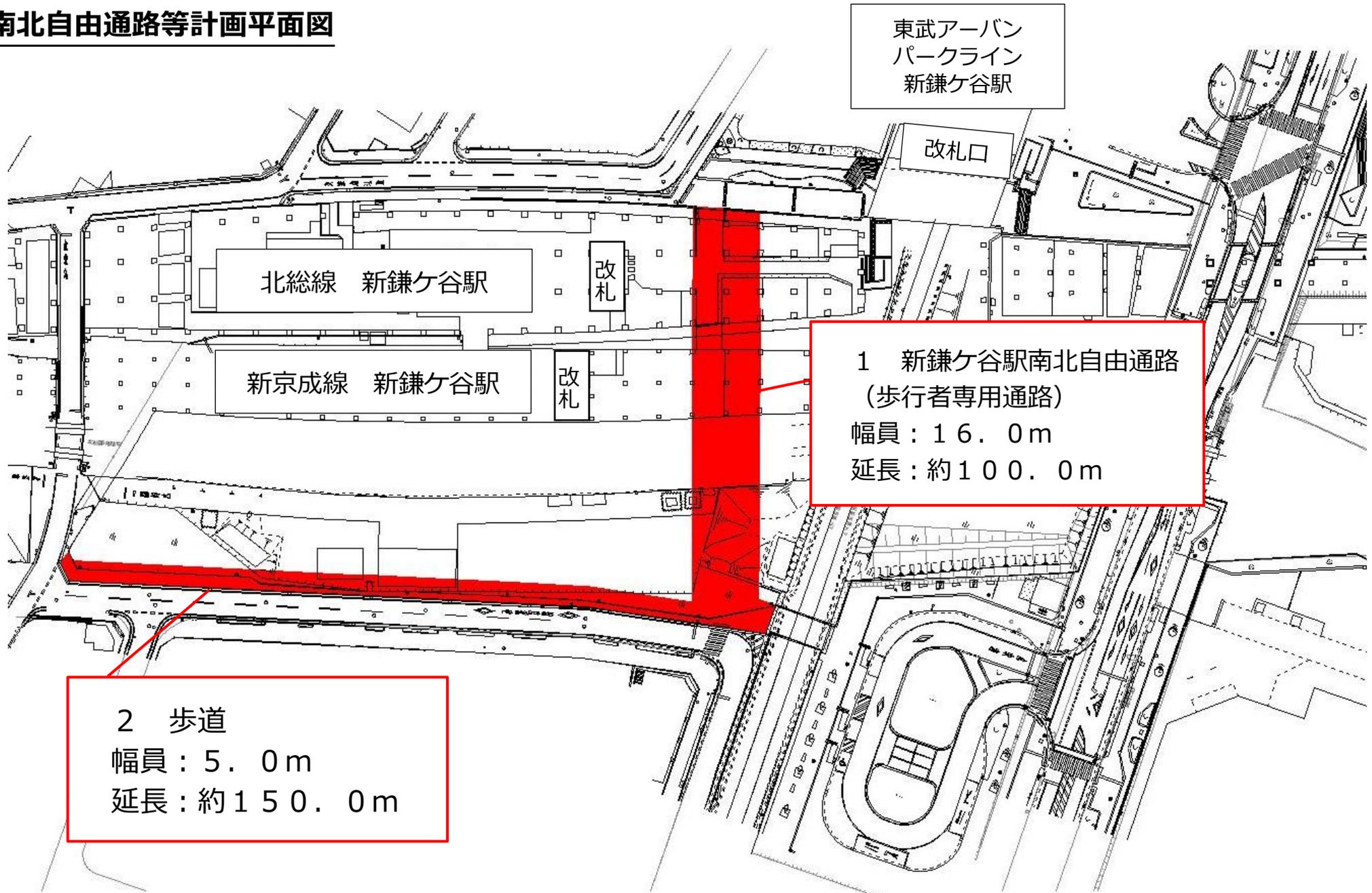
(2) 概要 (予定)

施設	幅員	延長
新鎌ヶ谷駅南北自由通路	16.0m	約100m
歩道	5.0m	約150m

(3) 計画平面図

別紙1のとおり

南北自由通路等計画平面図



※現時点での計画であり、今後の状況によっては変更となる可能性があります。

市役所方面